

関西菌類談話会会報

1992年5月 No.11



目 次

表紙 [ニオウシメジ]	吹春 俊光	1
関西菌類談話会1991年度総会報告	事務局	2
1991年度活動の記録 (下半期)	事務局	5
京都御苑の3調査地に発生した菌類-1989年の結果-	下野 義人, 佐々木久雄	9
名簿の訂正と変更等		12

関西菌類談話会 1991年度総会（第292回例会）報告

日 時 1992年2月8日（土）14：30～15：30

場 所 同志社女子大学デントン館

司 会 藤田博美氏

出席者数 51名

1. 開会宣言 藤田博美氏
2. 挨拶 小原弘之会長
3. 議長選出 佐々木久雄氏を選出
4. 書記選出 松井英幸氏を選出
5. 議 事

《1991年度活動報告・会計報告・その他の報告》

1) 事務局からの報告（事務局担当 上田俊穂氏）

ア. 役員会を4回行ない、会の諸事業について検討した。

1991年5月18日 大山観察・採集会の計画／役員・世話人の仕事分担の確認／「採集・観察会における注意事項」の検討。

1991年7月29日 大山観察・採集会の計画／報酬手当・謝礼について。

1991年11月30日 1992年度事業計画案の検討／1992年度予算案の検討。

1992年1月18日 1992年度事業計画の検討（分類学講座・宿泊例会・きのこ展等）／来年度予算の検討／通常会員の会費値上げの検討。

イ. 会員への発送（主なもののみ）。

1. 総会・講演会の案内（その変更通知）
2. 1991年度年間行事計画書
3. シンポジウム案内、大山採集会案内
4. 関西菌類談話会会報 No. 9
5. 関西菌類談話会会報 No. 10
会費請求書（滞納者のみ）
6. 日本菌学会ニュース別刷り
7. 会員名簿

ウ. 会員数（1991年12月31日現在）

1990年12月31日現在の会員数	505
1991年中の新入会員数	35
1991年中の退会会員数	8
会費滞納で退会とみなされた会員数	17
会員数=505+35-8-17=515人	
実質会員数511人（住所不明4人）	

2) 1991年度行事報告（下野義人氏）

第283回 5月19日（日）分類学講座（第16回）

「ホウキタケ属 (*Ramaria*) の分類について」

横山和正氏・場所：滋賀大学・参加者32名

第284回 6月22日（土）シンポジウム

「栽培きのこの現状と将来展望」

衣田雅人氏、森本肇氏、日下部克彦氏、山内政昭氏・場所：京都府立勤労会館・参加者61名

第285回 7月7日（日）三井寺裏山観察・採集会

59種採集、参加者49名

第286回 7月28日（日）榎原神宮観察・採集会

32種採集、参加者36名

第287回 8月2日（金）～5日（月）大山観察・採集会

130種採集、参加者53名

第288回 9月8日（日）箕面公園観察・採集会

34種採集、参加者39名

第289回 10月13日（日）比良山麓観察・採集会

118種採集、参加者71名

第290回 11月10日（日）大文字山観察・採集会

75種採集、参加者52名

第291回 12月15日（日）スライド大会

発表者17名、参加者72名

第292回 2月8日（土）総会及び講演会

3) 会報編集委員会報告（森本繁雄氏）

会報 No. 9 と No. 10 を編集・発行した。

No. 9 5月30日発行 12ページ 600部

No. 10 12月10日発行 12ページ 600部

4) 1991年度会計報告（北岸阿佐子氏）

・関西菌類談話会1991年度決算報告

1992年2月8日

[収入の部] (単位：円)

	予算額	決算額
繰越金	813,554	813,554
会費	450,000	178,000
会場費	40,000	55,051
雑収入	60,000	43,399
計	1,363,554	1,090,004

[支出の部]

	予算額	決算額
通信費	350,000	309,372
事務費	50,000	93,570
会場費	70,000	20,790
会議費	60,000	7,238
印刷コピー代	50,000	9,700

謝礼	60,000	0
会報印刷費	195,000	159,135
会報刊行諸経費	30,000	30,000
振替手数料	2,000	275
調査費	50,000	50,000
雑支出	10,000	0
予備費	40,000	0
事業準備金	100,000	100,000
計	1,067,000	780,000

[繰越]

- ・次年度繰越金 309,924
- ・別途に 500,000円の定期預金あり
以上 会計幹事 北岸阿佐子
- ・会費収入が少なくなっている。
- ・繰越金を食いつぶしていつている。

5) 会計監査報告 (愛甲軍雄氏)

関西菌類談話会1991年度会計監査報告

会計幹事より提出された現金出納帳簿, 会計納入原簿, 諸経費支出にともなう領収書等の会計書類に基づき監査を行った結果, 1991年度会計報告が正しいことを認めます。

1992年2月8日

会計監査 愛甲軍雄 ㊤

会計監査 志水杏子 ㊤

6) 特別会計決算報告 (北岸阿佐子氏)

関西菌類談話会1991年度特別会計決算報告

1991年 2月8日

故 浜田 稔博士記念事業寄付金

(同志社大学 小原弘之会計担当)

[収入] (前年度繰越金) 100,000

[支出] 0

[差引残高] 100,000

次年度 (1992年度) 繰越金 100,000

小原弘之㊤

7) 意見・質問事項

- ・積立金を食いつぶしているが, 会費を値上げして会計を正常にしたらどうか。(森本肇氏)
- ・会計報告を読むとしんどいのは判るが, 会報の編集内容を充実し, 紙面を増やして欲しい。(吉見昭一氏)
- ・お金はなるべく使わないように努力している。例えば総会の資料も上質紙は使っていない。(事務局 上田俊穂氏)

■以上, 1)~6) まで全て承認された。

《審議事項》

1) 1992年度行事計画 (下野義人氏)

1992年度関西菌類談話会行事案

第293回 5月17日 (日) 分類学講座 (第17回)

場所 滋賀大学会議室

演題 イグチ類の分類

演者 長沢栄史氏

第294回 6月20日 (土) シンポジウム

場所 同志社女子大学 デントン館

テーマ 菌根菌の栽培の現状と将来展望

演題 演者未定

第295回 7月12日 (日) 檀原神宮観察・採集会

第296回 8月1日 (土)~8月4日 (火)

乗鞍高原観察・採集会

第297回 9月6日 (日) 万博記念公園観察・採集会

第298回 10月11日 (日) 比良山麓観察・採集会

第299回 11月8日 (日) 大文字山観察・採集会

第300回 12月13日 (日) 300回記念大会 [スライド大会]

詳細未定

第301回 2月6日 (土) 総会及び講演会

備考

- ・10月10日 (土)~12日 (月) に関西菌類談話会, 植物園, 京都園芸倶楽部の三者共催で3日間の[きのこ展]を行う予定です。
- ・分類学講座は例年午前中でしたが, 今年は午後になります。
- ・各観察・採集会の世話人をお願いする方々には追ってご依頼します。もし世話係をやって上げようと思っておられる方がおられましたら, 係まで連絡ください。

2) 会則の改正 (上田俊穂氏)

関西菌類談話会会則の一部改定について

[現行]

第15条 本会の会費は下記のように定める。

(1) 通常会員 年額 1000円

(2) 賛助会員 年額 5000円

第16条 会費は前納制とする。但し, 一度納入した会費は返却しない

会費を3年間納入しない場合は退会したものと見なす。

[改定案]

第15条 本会の会費は下記のように定める。

(1) 通常会員 年額 2000円

(2) 賛助会員 年額 5000円

第16条 会費は前納制とする。但し, 一度納入した会費

は返却しない
 会費を2年間納入しない場合は退会したものと見
 なす。

[提案理由]

第15条について：会報の質的な充実（ページ増，写真の
 多用）

例会の充実（講師への謝礼や交通費実費などの支
 払い）

諸物価の上昇への対応のため

第16条について：3年間納入せず，そのまま退会する人
 がかなりあって，財政を圧迫している。（昨年度
 は17名で34,000円，今年度は10名で20,000円の見
 込み）会員にとって会費の額が大きくなると，滞
 納したときには支払いがこたえる．会の会計にと
 っては財政の圧迫が大きくなる．それを回避する
 ため。

[施行日]

1992年2月8日

3) 1992年度会計予算（北岸阿佐子氏）

関西菌類談話会1982年度予算案

1991年2月8日

[収入の部]

(単位：円)

繰越金	309,924
会費	700,000
会場費	40,000
雑収入	50,000
計	1,099,924

[支出の部]

通信費	350,000
事務費	100,000
会場費	70,000
会議費	60,000
印刷コピー代	50,000
謝礼	60,000
会報印刷費	200,000
会報刊行諸経費	30,000

振替手数料	2,000
調査費	20,000
雑支出	10,000
予備費	47,000
事業準備金	100,000
計	1,099,924

(別途に事業準備金60万円の定期預金)

以上 会計幹事 北岸阿佐子

4) 審議

1) の審議

特に意見なし。

2) 及び 3) の審議

- ・なぜ来年度からの値上げか，今年度から値上げしないのか。（永瀬連平氏）
- ・1年先ではなく出来るときから値上げをしたら良いのでは。（森本肇氏）
- ・ぎりぎりまで，出来るだけ頑張りたい．今年は何とかなる．値上げによる退会も有り得る。（事務局 上田俊穂氏）
- ・会費の未収分で今年度はうるおうであろうが，来年は値上げをしなければならぬ．今年度は据置で，値上げは来年からでも良いのではないか。（吉見昭一氏）

■以上，1)～3) の審議事項は，圧倒的な拍手により提案通り可決された。

5) その他

- ・会の振替口座番号を会の印刷物に明記して欲しい。（山中太木氏）
- ・会報，例会の講演要旨等の裏側に印刷してあります．会で使用している封筒の費用が馬鹿になりません，安いところが有れば教えて下さい。（事務局 上田俊穂氏）

6) 閉会宣言 藤田博美氏

以上

1991年度 活動の記録 (下半期)

第288回例会 箕面公園観察・採集会

大阪府箕面市箕面公園 シイ・カン林
1991年9月8日(日) 参加者39名, 晴

今年も8月上旬から雨らしい雨は一度だけで、山は乾燥し、収穫は少ししかなかった。しかし、昨年同様そのことを予想し、事前に会員の森本繁雄氏にきのこの生態写真の撮り方を実地で教えてもらう約束をしておいた。幸い、マントカラカサタケのつぼみが2本採れたので、それらしく「植えて」モデルとした。

また、参加者に観察・採集会に適切な場所を紹介してもらう為にアンケートをとったが、千里中央公園(吹田市)、奥池(芦屋市)、中山寺奥ノ院(宝塚市)、和泉葛城山(大阪・和歌山県境)、甲山森林公園(西宮市)、箕面公園の別の場所などが今までに行った事がない場所であった。参考にさせて頂く予定である。

事前の天候に大きく左右されるきのこの観察・採集会は、適量の降雨を神仏に乞うしかない。世話人としては10日ほど前から毎日撒水に行きたい気持ちはある。(上田俊穂)

採集品リスト

- | | |
|-------------------------------------|---------------|
| 1 <i>Lentinus lepideus</i> | マツオウジ |
| 2 <i>Schizophyllum commune</i> | スエヒロタケ |
| 3 <i>Pluteus atricapillus</i> | ウラベニガサ |
| 4 <i>Pluteus</i> sp. | ウラベニガサ属 |
| 5 <i>Macrolepiota</i> sp. | マントカラカサタケ |
| 6 <i>Macrolepiota alborubescens</i> | イロガワリシロカラカサタケ |
| 7 <i>Coprinus disseminatus</i> | イヌセンボンタケ |
| 8 <i>Psathyrella candolliana</i> | イタチタケ |
| 9 <i>Agrocybe erebia</i> | ツチナメコ |
| 10 <i>Agrocybe</i> sp. | フミズキタケ属 |
| 11 <i>Crepidotus badioflocosus</i> | クリゲノチャヒラタケ |
| 12 <i>Xerocomus parvulus</i> | ヒメアワタケ |
| 13 <i>Boletus subvelutipes</i> | アメリカウラベニイロガワリ |
| 14 <i>Russula pectinatoides</i> | クシノハタケモドキ |
| 15 <i>Russula mariae</i> | ニオイコベニタケ |
| 16 <i>Russula violeipes</i> | ケショウハツ |
| 17 <i>Russula pseudointegra</i> | シュイロハツ |
| 18 <i>Cantharellus</i> sp. | アンズタケ属 |

- | | |
|-------------------------------------|------------|
| 19 <i>Corticicia ceae</i> | コウヤクタケ科の一種 |
| 20 <i>Xylobolus spectabilis</i> | モミジウロコタケ |
| 21 <i>Polyporus</i> sp. | アミヒラタケ属 |
| 22 <i>Microporus flabelliformis</i> | ウチワタケ |
| 23 <i>Laetiporus versisporus</i> | ヒラフスベ |
| 24 <i>Coltricia pusilla</i> | ヒメオツネンタケ |
| 25 <i>Lenzites betulina</i> | カイガラタケ |
| 26 <i>Daedalea dickinsii</i> | ホウロクタケ |
| 27 <i>Coriolus versicolor</i> | カワラタケ |
| 28 <i>Truncospora ochroleuca</i> | ウズラタケ |
| 29 <i>Fomitopsis pinicola</i> | ツガサルノコシカケ |
| 30 <i>Nigroporus vinosus</i> | ブドウタケ |
| 31 <i>Cyclomyces fuscus</i> | ワヒダタケ |
| 32 <i>Onnia vallata</i> | アズマタケ |
| 33 <i>Auricularia polytricha</i> | アラゲキクラゲ |
| 34 <i>Bisporella</i> sp. | ビョウタケ属 |

第289回 比良山麓観察・採集会

滋賀県滋賀郡志賀町 イン谷口周辺 アカマツ・クヌギ・コナラ林
1991年10月13日(日) 参加者72名, 雨

今回、採集地となった比良山麓は本会としては初めての場所であり、主な採集場所は落葉広葉樹林である。当日は、台風21号に影響された前線の活動による強い雨と時折の強風にもかかわらず、70名を越える参加があった。天候は台風の北上につれて良くなるのではという期待に反し、採集会終了まで雨はやまなかった。きのこの方は、9月中旬から定期的な雨が降ったためか発生が多く、採集された種数は110種を越えた。ただし、1種あたりの発生量はあまり多くないようであった。(太田 明)

採集品リスト

- | | |
|---------------------------------|----------|
| 1 <i>Pleurotus ostreatus</i> | ヒラタケ |
| 2 <i>Hygrocybe conica</i> | アカヤマタケ |
| 3 <i>Hygrocybe flavescens</i> | アキヤマタケ |
| 4 <i>Hygrocybe cruenta</i> | チシオヒメノカサ |
| 5 <i>Hygrocybe cantharellus</i> | ベニヒガサ |
| 6 <i>Lyophyllum decastes</i> | ハタケシメジ |
| 7 <i>Lyophyllum semitale</i> | スミズメシメジ |
| 8 <i>Lyophyllum</i> sp. | シメジ属 (1) |
| 9 <i>Lyophyllum</i> sp. | シメジ属 (2) |
| 10 <i>Laccaria amethystea</i> | ウラムラサキ |

- 11 *Laccaria bicolor* オオキツネタケ
12 *Laccaria laccata* キツネタケ
13 *Laccaria vinaceoavellanea* カレバキツネタケ
14 *Clitocybe gibba* カヤタケ
15 *Lepista sordida* コムラサキシメジ
16 *Tricholomopsis rutilans* サマツモドキ
17 *Tricholoma flavovirens* キシメジ
18 *Armillariella tabescens* ナラタケモドキ
19 *Omphalina epichysium* ヒダサカズキタケ
20 *Callistosporium luteoolivaceum* ヒメキシメジ
21 *Pleurocybella porrigens* スギヒラタケ
22 *Collybia butyracea*? エセオリミキ?
23 *Collybia dryophila* モリノカレバタケ
24 *Collybia* sp. モリノカレバタケ属
25 *Panellus stypticus* ワサビタケ
26 *Marasmius pulcherripes* ハナオチバタケ
27 *Mycena galericulata* クヌギタケ
28 *Mycena haematopoda* チンオタケ
29 *Mycena pura* サクラタケ
30 *Mycena* sp. クヌギタケ属
31 *Xeromphalina caudicinalis* キチャホウライタケ
32 *Amanita rubrovolvata* ヒメベニテングタケ
33 *Amanita vaginata* var. *vaginata* ツルタケ
34 *Amanita vaginata* var. *fulva* カバイロツルタケ
35 *Amanita virosa* ドクツルタケ
36 *Amanita pseudoporphyria* コテングタケモドキ
37 *Amanita citrina* var. *citrina* コタマゴテングタケ
38 *Amanita rubescens* ガンタケ
39 *Amanita abrupta* タマシロオニタケ
40 *Amanita* sp. テングタケ属
41 *Lepiota cygnea* シロヒメカラカサタケ
42 *Lepiota clypeolaria* ワタカラカサタケ
43 *Coprinus disseminatus* イヌセンボンタケ
44 *Psathyrella candolliana* イタチタケ
45 *Agrocybe erebia* ツチナメコ
46 *Stropharia rugosoannulata* サケツバタケ
47 *Naematoloma fasciculare* ニガクリタケ
48 *Psilocybe argentipes* ヒカゲシビレタケ
49 *Kuehneromyces mutabilis* センボンイチメガサ
50 *Rozites caeperata* ショウゲンジ
51 *Cortinarius pseudopurpurascens* フウセンタケモドキ
52 *Cortinarius anomalus* マルミノフウセンタケ?
53 *Cortinarius salor* ムラサキアブラシメジモドキ
54 *Cortinarius violaceus* ムラサキフウセンタケ
55 *Cortinarius galerooides* トガリニセフウセンタケ
56 *Cortinarius* sp. フウセンタケ属
57 *Gymnopilus liquiritiae* チャツムタケ
58 *Galerina* sp. ケコガサタケ属
59 *Crepidotus mollis* チャヒラタケ
60 *Rhodophyllus nidorosus* コクサウラベニタケ
61 *Rhodophyllus rhodopolius* クサウラベニタケ
62 *Rhodophyllus coelestinus* var. *violaseus* ヒメコンイロイッポンシメジ
63 *Rhodophyllus stauroporus* ミイノモミウラモドキ
64 *Rhodophyllus murrarii* ケイボガサタケ
65 *Rhodophyllus kujuenis* ナスコンイッポンシメジ
66 *Rhodophyllus* sp. イッポンシメジ属 (1)
67 *Rhodophyllus* sp. イッポンシメジ属 (2)
68 *Paxillus atrotomentosus* ニワタケ
69 *Paxillus cutisii* サケバタケ
70 *Paxillus involutus* ヒダハタケ
71 *Gomphidius roseus* オウギタケ
72 *Strobilomyces confusus* オニイグチモドキ
73 *Austroboletus gracilis* クリカワヤシャイグチ
74 *Suillus bovinus* アミタケ
75 *Pulveroboletus viridis* ヒメウグイスイグチ
76 *Tylopilus eximius* ウラグロニガイグチ
77 *Russula eburneoareolata* ツギハギハツ
78 *Russula laurocerasi* クサハツモドキ
79 *Russula senecis* オキナクサハツ
80 *Russula flavida* ウコンハツ
81 *Russula castanopsidis* カレバハツ
82 *Russula cyanoxantha* f. *peltereauii* ウグイスタケ
83 *Russula lilacea* ウスムラサキハツ
84 *Russula rosacea* ヤブレベニタケ
85 *Russula sanguinea*? チシオハツ?
86 *Russula* sp. ベニタケ属 (1)
87 *Russula* sp. ベニタケ属 (2)
88 *Lactarius volemus* チチタケ
89 *Lactarius subplinthogalus* ヒロハウスズミチチタケ
90 *Lactarius quietus* チョウジチチタケ
91 *Lactarius chrysorrheus* キチチタケ
92 *Lactarius hatsudake* ハツタケ
93 *Cantharellus infundibuliformis* ミキイロウスタケ
94 *Cantharellus luteocomus* トキイロラッパタケ
95 *Craterellus cornucopioides* クロラッパタケ
96 *Clavulinopsis helvola* キソウメントケ
97 *Clavulina cristata* カレエダタケ
98 *Ramaria botrytis* ホウキタケ

99	<i>Polyporus alveolaris</i>	ハチノスタケ	5	<i>Tricholoma japonicum</i>	シロシメジ
100	<i>Cryptoporus volvatus</i>	ヒトクチャタケ	6	<i>Pleurocybella porrigens</i>	スギヒラタケ
101	<i>Oligoporus tephroleucus</i>	オシロイタケ	7	<i>Collybia butyracea</i>	エセオリミキ
102	<i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ	8	<i>Collybia</i> sp.	モリノカレバタケ属
103	<i>Lenzites betulina</i>	カイガラタケ	9	<i>Panellus stypticus</i>	ワサビタケ
104	<i>Daedaleopsis styracina</i>	エゴノキタケ	10	<i>Strobilurus ohshimae</i>	スギエダタケ
105	<i>Daedaleopsis purpurea</i>	ミイロアマタケ	11	<i>Strobilurus stephanocystis</i>	マツカサキノコモドキ
106	<i>Pisolithus tinctorius</i>	コツブタケ	12	<i>Mycena amygdalina</i>	ニオイアシナガタケ
107	<i>Calostoma japonicum</i>	クチベニタケ	13	<i>Mycena galericulata</i>	クヌギタケ
108	<i>Cyathus striatus</i>	スジチャダイゴケ	14	<i>Mycena haematopoda</i>	チシオタケ
109	<i>Lycoperdon</i> sp.	ホコリタケ属 (1)	15	<i>Mycena epipterygia</i>	ナメアシタケ
110	<i>Lycoperdon</i> sp.	ホコリタケ属 (2)	16	<i>Mycena pura</i>	サクラタケ
111	<i>Mutinus bambusinus</i>	キツネノエフデ	17	<i>Xeromphalina causticinalis</i>	キチャホウライタケ
112	<i>Phallus impudicus</i>	スッポントケ	18	<i>Xeromphalina curtipes</i>	ヒメカバイロタケモドキ
113	<i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ	19	<i>Flammulina velutipes</i>	エノキタケ
114	<i>Leotia lubrica</i> f. <i>lubrica</i>	ズキンタケ	20	<i>Amanita abrupta</i>	タマシロオニタケ
115	<i>Chlorociboria aeruginosa</i>	クロクシ ヨウグサレキン	21	<i>Pluteus atricapillus</i>	ウラベニガサ
116	<i>Chlorociboria aeruginascens</i>	クロクシ ヨウグサレキンモドキ	22	<i>Agaricus subrutilescens</i>	ザラエノハラタケ
117	<i>Galiella celebica</i>	オオゴムタケ	23	<i>Phaeolepiota aurea</i>	コガネタケ
118	<i>Isaria japonica</i>	ハナサナギタケ	24	<i>Psathyrella piluliformis</i>	ムササビタケ
			25	<i>Naematoloma sublateritium</i>	クリタケ
			26	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ
			27	<i>Pholiota highlandensis</i>	ヤケアトツムタケ
			28	<i>Pholiota</i> sp.	スギタケ属
			29	<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属
			30	<i>Rozites caperata</i>	シ ヨウゲンジ
			31	<i>Cortinarius pseudosalor</i>	ヌメリササタケ
			32	<i>Cortinarius bovinus</i>	サザナミツバフウセンタケ
			33	<i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属
			34	<i>Gymnopilus liquiritiae</i>	チャツムタケ
			35	<i>Crepidotus</i> sp.	チャヒラタケ属
			36	<i>Paxillus panuoides</i>	イチ ヨウタケ
			37	<i>Suillus bovinus</i>	アミタケ
			38	<i>Russula metachroa</i>	イロガワリシロハツ
			39	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
			40	<i>Lactarius chrysorrheus</i>	キチチタケ
			41	<i>Stereum ostrea</i>	チャウロコタケ
			42	<i>Stereopsis burtianum</i>	ハナウロコタケ
			43	<i>Sparassis crispa</i>	ハナビラタケ
			44	<i>Mycocacia capelandii</i>	サガリハリタケ
			45	<i>Hydnum repandum</i>	カノシタ
			46	<i>Hydnum repandum</i> var. <i>album</i>	シロカノシタ
			47	<i>Thelephoraceae</i>	イボタケ科の仲間
			48	<i>Polyporus alveolaris</i>	ハチノスタケ
			49	<i>Microporus vernicipes</i>	ツヤウチワタケ
			50	<i>Oligoporus tephroleucus</i>	オシロイタケ
			51	<i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
			52	<i>Lenzites betulina</i>	カイガラタケ

第290回 大文字山観察・採集会

京都市左京区大文字山 アカマツ・コナラ林
1991年11月10日(日) 参加者52名, 晴

第290回大文字山観察・採集会は五月晴れの好天に恵まれ、52名もの参加者があつた。大文字山は手軽に登れる山として、市民に人気が高く、この日も大勢のハイカーで賑わっていた。

一行は登山道の周辺や中腹にある千人塚付近のアカマツ林できのこを採集しながら、頂上近くの送り火に使われる火床を目指して登り、そこで同定会を実施した。きのこを広げた異様な集団は、一般登山者の注目を集め、珍間・奇間の飛び交う賑やかな同定会となった。

この時期としては、採集されたきのこは種数、収獲量ともにももの足らない感じであつた。それでも、秋の松山の代表的なシ ヨウゲンジ、サザナミツバフウセンタケ、イロガワリシロハツなどが並び、晩秋に発生する新鮮なムラサキシメジも見られた。(佐々木久雄)

採集品リスト

1	<i>Pleurotus pulmonarius</i>	ウスヒラタケ
2	<i>Laccaria bicolor</i>	オオキツネタケ
3	<i>Clitocybe fragrans</i>	コカブイヌシメジ
4	<i>Lepista nuda</i>	ムラサキシメジ

- | | | | |
|----|------------------------------------|-------------|------------------------|
| 53 | <i>Coriolus versicolor</i> | カワラタケ | オオシロカラカサタケ, コウボウフデ, タ |
| 54 | <i>Trichaptum abietinum</i> | シハイタケ | マムクエタケ, コイヌノエフデなど |
| 55 | <i>Daedaleopsis styracina</i> | エゴノキタケ | 7. 本多 澄夫氏 |
| 56 | <i>Daedaleopsis purpurea</i> | ミイロアマタケ | 今年見たきのこ |
| 57 | <i>Daedaleopsis tricolor</i> | チャカイガラタケ | クジラタケ, ラッコタケ, サジタケ, タマ |
| 58 | <i>Truncospora ochroleuca</i> | ウズラタケ | ツキカレバタケ, ハナビタケなど |
| 59 | <i>Onnia vallata</i> | アズマタケ | 8. 荒井 滋氏 |
| 60 | <i>Astraeus hygrometricus</i> | ツチグリ | 榎原神宮で見られたきのこ |
| 61 | <i>Scleroderma areolatum</i> | ヒメカタショウロ | マツオウジ, ダイダイタケ, タマゴタケ, |
| 62 | <i>Calostoma japonicum</i> | クチベニタケ | オオシロカラカサタケ, ノウタケなど |
| 63 | <i>Lycoperdon pedicellatum</i> | アラゲホコリタケモドキ | 9. 松井 英幸氏 |
| 64 | <i>Lycoperdon perlatum</i> | ホコリタケ | 清水山や長野県乗鞍高原で見られたきのこ |
| 65 | <i>Lycoperdon colossium</i> | オオキツネノチャブクロ | ヤマヒガサ, アカチャツエタケ, カンバタ |
| 66 | <i>Lycoperdon pyriforme</i> | タヌキノチャブクロ | ケ, スリコギタケなど |
| 67 | <i>Lycoperdon spadiceum</i> | キホコリタケ | 10. 橋本 敏弘氏 |
| 68 | <i>Pseudocolus schellenbergiae</i> | サンコタケ | 薬になるきのこ (きのこの生理活性成分) |
| 69 | <i>Phallus impudicus</i> | スッポンタケ | 徳島文理大で行われているヒトクチタケの研究 |
| 70 | <i>Tremella foliacea</i> | ハナビラニカワタケ | ヒトクチタケ, シイタケ, チャコブタケ, |
| 71 | <i>Neolecta vittelina</i> | ヒメカンムリタケ | 分析機器や研究室の様子など |
| 72 | <i>Ascocoryne cylichnium</i> | ムラサキゴムタケ | 11. 森本 繁雄氏 |
| 73 | <i>Cordierites frondosa</i> | クロハナビラタケ | 今年見たきのこ |
| 74 | <i>Chlorociboria aeruginosa</i> | ロクショウグサレキン | コゲエノヘラタケ, アカダマタケ, ヤナギ |
| 75 | <i>Isaria forinosa</i> | コナサナギタケ | マツタケ, チャナメツムタケなど |

第 291 回例会 スライド大会

京都市左京区田中神社

1991年12月15日 (日) 参加者72名

1. 佐野 修治氏
京都御苑のきのこ
トガリアミガサタケ, タマゴタケ (白色),
ハイイロシメジなど
2. 高木 修史氏
川西大平山のきのこ
コテングタケモドキ?, イロガワリシロハ
ツ?, ノウタケなど
3. 佐々木 久雄氏
京都御苑や大山採集会のスライド
ムラサキナギナタタケ, ベニヒガサ, ヤグ
ラタケ, キツネノロウソクなど
4. 横山 和正氏
きのこを使ったおもちゃ
5. 服部 力氏
西表島などの硬いきのこ
ネットアイシグロタケ, バライロアマタケ,
ヤエヤマキコブタケなど
6. 吉見 昭一氏
大文字山や京都御苑のきのこ
7. 本多 澄夫氏
今年見たきのこ
クジラタケ, ラッコタケ, サジタケ, タマ
ツキカレバタケ, ハナビタケなど
8. 荒井 滋氏
榎原神宮で見られたきのこ
マツオウジ, ダイダイタケ, タマゴタケ,
オオシロカラカサタケ, ノウタケなど
9. 松井 英幸氏
清水山や長野県乗鞍高原で見られたきのこ
ヤマヒガサ, アカチャツエタケ, カンバタ
ケ, スリコギタケなど
10. 橋本 敏弘氏
薬になるきのこ (きのこの生理活性成分)
徳島文理大で行われているヒトクチタケの研究
ヒトクチタケ, シイタケ, チャコブタケ,
分析機器や研究室の様子など
11. 森本 繁雄氏
今年見たきのこ
コゲエノヘラタケ, アカダマタケ, ヤナギ
マツタケ, チャナメツムタケなど
12. 村上 康明氏
パキスタンの植生ときのこ
オオシロアリタケの仲間, コガネタケ, ア
カモミタケ, ヤマドリタケモドキなど
13. 本郷 次雄氏
今年見たきのこ
ヤブレベニタケ, シロテングタケ, アシナ
ガイグチ, クロニガイグチなど
14. 小林 孝人氏
滋賀のきのことアセタケ属
オオキツネタケ, ヒカゲシビレタケ, *In-*
ocybe sp. など
15. 伊沢 正名氏
沖縄西表島のきのこと写真の撮り方
キアミズキンタケ, エナシラッシタケ?,
きのこ写真の撮り方 モデル 丸西靖恵嬢
16. 相良 直彦氏
アンモニア性菌
尿素散布跡に出たザラミノヒトヨタケやイ
バリシメジなど
17. 上田 俊穂氏
箕面公園や大山での例会の様子
マントカラカサタケなど

会場は満員で, 写されたスライドは力作が多く,
予定時間をオーバーして終了した。(橋屋 誠)

京都御苑の3調査地に発生した菌類—1989年の結果—

下野 義人, 佐々木久雄

京都御苑は京都市の中心にありながら、動植物が豊富な場所であり、探鳥会、きのこの観察会、植物観察会等が行われている。また、ここには多くの菌類が1年を通じて発生し、そのなかでも比較的珍しいチャタマゴタケが多く発生する(吉見, 1990; 佐々木, 未発表)。筆者らはこのチャタマゴタケの生態を明らかにするために、1989年より植生の異なった3カ所に、10m×10mのコードラートを作り、発生調査を行っている。チャタマゴタケ以外のきのこについても発生場所、発生時期、発生数を調査し、記録している。

ここでは1989年に3コードラート内に発生したきのこことそれらの発生活長について報告する。

1. 調査場所および調査方法

調査場所：調査地1を白雲神社の南側、調査地2を調査地1の道を隔てた南側、調査地3を大宮御所の南側に設置した。

調査方法：調査のメンバーは佐々木久雄、北岸阿佐子、下野義人、および高槻南高校の生物部OB(稲葉真由美、山城日出雄、谷口順)であった。調査期間は1989年3月から12月間で、きのこの多く発生する6月下旬から7月下旬に週1回から2回、それ以外の時期には月1回調査し、調査回数は計15回であった。

調査の方法を次に示す。コードラート内(10m×10m)の一定のコースを歩き、発生したきのこの位置と種名を記録した。発生したきのこはすべて調査地内から取り去り、自宅に持ち帰り、それらの生体重と乾燥重を上皿天秤(精度0.1g)で測定した。

気象の資料は御所から約2km西にある京都地方気象台のものを用いた。

2. 調査場所の植生

調査地内と周辺の樹種を1989年の5月4日に調査した。調査地1周辺にソメイヨシノが多く、調査地内には直径20cmのツクバネガシが1本、クスノキが3本、エノキが1本あった。ha当りの胸高断面積合計は39.7m²で、ツクバネガシの胸高直径が全体の78.6%を占めた。調査地2

周辺にソメイヨシノ、アカマツ、サルスベリがあり、調査地内にはツクバネガシが1本あった(34.8m²/ha)。調査地3周辺にスダジイが多くあり、ソメイヨシノ、アカマツ、モミもあり、調査地内には太いスダジイが2本あった(53.1m²/ha)。3調査地ともに林床にほとんど植物がなかった。

3. 結果および考察

1. 3調査地の発生種数の変化

3調査地における7月のきのこの発生種数を図1に示し、京都気象台における7月の日最高気温、日最低気温と日降水量を図2に示した。

調査地1と調査地3では7月2日から、調査地2では7月16日から発生を始めた。調査地1では7月23日に、調査地2と調査地3では8月4日に発生が止まり、調査地3では9月中旬に再びきのこが発生した。3調査地ともにきのこの発生期間は短かった。調査地毎に見ると、発生期間は調査地1で22日、調査地3で29日であったが、調査地2では15日であり、他の調査地に比べ調査地2の発生期間が特に短く、発生開始も遅いことが分かった。

調査地3では種数の発生ピークが7月2日と7月16日にあり、調査地2では7月16日にピー

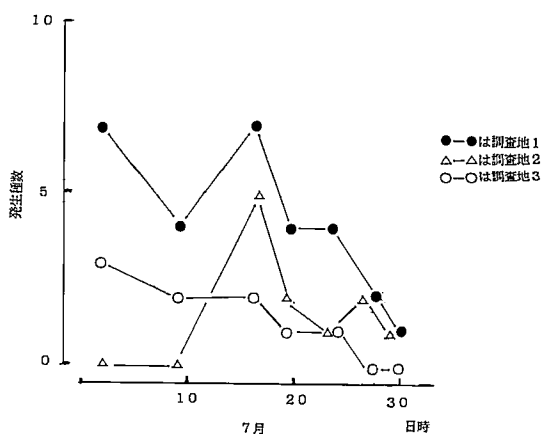


図1 3調査地における7月のきのこの発生種類の変化 ●—●は調査地1を、△—△は調査地2を、○—○は調査地3を示す。

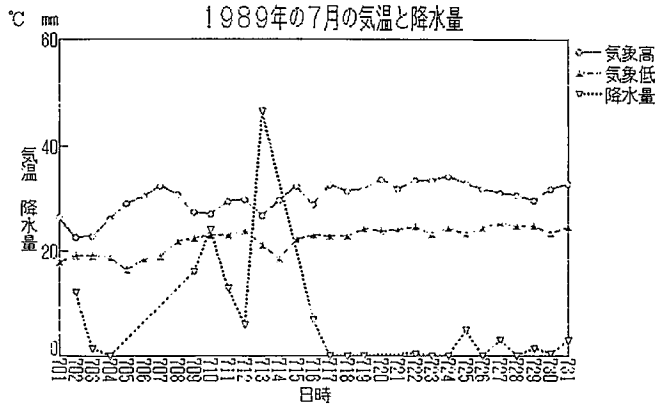


図2 京都地方気象台における1989年7月の気象の変化
 ○-○は日最高気温, ▲-▲は日最低気温, ▽-▽は日降水量を示す。

クになった。調査地3で7月9日に発生種数が減少したのは7月3日から7月8日の間に降水がまったくなく、気温が上昇したためと考えられる。

2. 多数発生した種の発生状況

3調査地の内で、発生種数の多かった調査地3に発生したアカカバイロタケ、クシノハタケモドキ、ケショウハツ、チャタマゴタケの発生消長を図3に表す。

図3より、ケショウハツとクシノハタケモドキが7月9日に発生ピークに達し、1週間遅れの7月16日にアカカバイロタケが発生ピークに達した。同じベニタケ属の種であっても発生時期が異なった。これは種によって気温や降水量等の子実体の形成条件が異なっているためであろう。

チャタマゴタケの発生はさらに遅れ、7月23日から発生を開始し、7月27日に発生ピークに達し、7月30日には発生が止まった。本年のチャタマゴタケの発生は例年に比べ約1週間ほど遅くなっていた。これは7月16日に13.5mmの降雨があった後、7月25日までほとんど降水が

なかったため、チャタマゴタケの発生が遅れたと考えられる。

3. 調査地毎に発生した菌類 調査地1 (表1)

この調査地には6種、30個体のきのこが発生し、そのうち、*Lactarius* sp. が18個体 (60.0%)、*Russula* sp. が8個体 (26.7%)で多かった。この調査地全体の発生量は173.8g/100m²で、*Russula* sp. が80.9gで46.7%を、*Lactarius* sp. が77.1gで44.5%を占めていた。3調査地の中では発生子実体数が一番少なかった。

表1 調査地1に発生した菌類

種	発生数	生重量 (g)	乾燥重 (g)
チチタケ属	18	77.1	12.2
ベニタケ属	8	80.9	5.3
クシノハタケモドキ	1	3.0	0.4
クサハツ	1	12.3	0.9
アソボソチチタケ	1	0.5	—
アセタケ属	1	—	—
合計	30	173.8	18.8

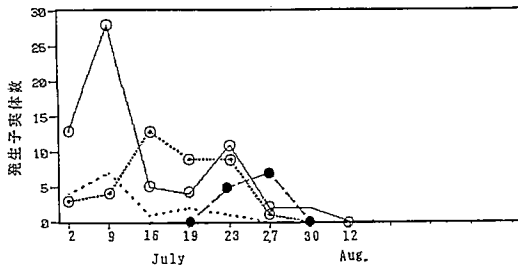


図3 調査地3に発生した4種のきのこの発生消長
 ○クシノハタケモドキ, □アカカバイロタケ, ...ケショウハツ, ●チャタマゴタケ。

表2 調査地2に発生した菌類

種	発生数	生重量 (g)	乾燥重 (g)
カレバキツネタケ	796	1326.2	104.7
チャタマゴタケ	6	126.0	7.2
テングツルタケ	5	18.5	1.4
カブラアセタケ	2	1.4	0.1
クロチチダマシ	2	2.2	0.3
ウスイロカラチチタケ	1	3.4	0.4
合計	812	1477.7	114.1

表3 調査地3に発生した菌類

種	発生数	生重量 (g)	乾燥重 (g)
クシノハタケモドキ	65	394.1	104.7
アカカバイロタケ	39	868.9	130.6
ケシヨウハツ	15	105.0	9.8
チャタマゴタケ	12	252.0	15.4
クロチチダマシ	9	11.3	1.2
ビロードツエタケ	5	7.8	0.7
ヒメコナカブリツルタケ	2	4.4	0.3
ツルタケ	1	5.5	0.5
ヒビワレシロハツ	1	3.8	0.2
クロアザアワタケ	1	4.8	0.6
ヒメカタシヨウロ	1	0.6	—
アセタケ属	1	—	—
合計	152	1658.2	263.4

調査地2 (表2)

この調査地2には6種、812個体のきのこが発生し、発生数の98% (796個体) がカレバキツネタケであった。それ以外のきのこは16個体しか発生せず、そのうち、チャタマゴタケは6個体 (0.7%) 発生した。それらの発生場所は調査地上部の枠周辺であった。この調査地全体の発生量は1477.7 g/100 m² で、カレバキツネタケが全体の89.7%を占めた。チャタマゴタケは126 gで8.5%を占めていた。テングツルタケ、カブラアセタケは少量であった。

調査地3 (表3)

この調査地では3調査地の中で発生種数が一番多く (12種)、発生個体数は152本であった。そのうち、クシノハタケモドキが65個体 (42.8%)、アカカバイロタケが39個体 (25.7%)、ケシヨウハツが15個体 (9.9%)、チャタマゴタケは12個体 (7.9%) 発生した。チャタマゴタケは調査地の上部に多かった。

きのこの発生量は調査地全体で1658.2 g/100 m² であり、アカカバイロタケが869.9 gで全体の52.4%を、クシノハタケモドキが394.1 g

で23.8%を、ケシヨウハツが105.0 gで6.3%を占めていた。チャタマゴタケは252 gで15.2%を占め、本数の割に重さの占める割合が大きかった。クロチチダマシ、ビロードツエタケ、ヒメコナカブリツルタケ、ツルタケの発生量は少なかった。

おわりにかえて

1989年の調査は御苑のどの場所に調査地を設置するのがよいのかを決めるための予備調査であった。この結果から、チャタマゴタケは調査地1ではまったく発生しなかったため、来年度以降は調査地1の調査をやめる予定である。さらに、他の2調査地ではチャタマゴタケが少数発生したが、発生場所は調査地の端であったため、2調査地の調査面積を広げる必要があると考えている。それ以外にも予想以上の成果があった。すなわち、スダジイの多い調査地3では京都市の東山区の清水山のコジイ林と同じように、ベニタケ属、テングタケ属のきのこが多く発生することが分かった。このことは、森林の中の様にいろいろな要因を考える必要のある場所よりも、御苑のような平らで単純な植生において種の発生活長を調べる方が種の発生条件を明らかにできるとも考えられる。なお、この調査を来年度から最低3年間は続けたいと考えている。

最後に、この調査に関して環境庁の京都御苑事務所の皆様方にいろいろ面で配慮して頂きまして、有難うございました。ここにお礼申し上げます。

(下野 義人：〒573 枚方市伊加賀西町 府立枚方西高校)

(佐々木久雄：〒520-23 滋賀県野洲郡野洲町大字小篠原1690-17)

参 考 文 献

吉見昭一, 1990. 京都御苑のきのこ. 京都御苑の自然現況調査報告第1集: 45-98. 国民公園保存協会 京都御苑保存会。

.....

関西菌類談話会会員名簿記載事項の訂正と変更

昨年お送りした会員名簿の入力の間違いの訂正や、会員の住所変更等により、下記の通り訂正・変更致します。ご迷惑をおかけした方々には、お詫び致します。

通し番号/郵便番号/連絡先所在地/電話番号の順に列挙します。(敬称略)

- 22/飯田すず子/464/名古屋市千種区赤坂町4-46 外山様方/0652-833-7711
40/稲垣良子/639-02/香芝市関屋北7-23-23/電話番号は訂正なし。
41/稲葉真由美/247/鎌倉市梶原200 日本ロシユ研究所微生物室/0467-47-2210
57/岩橋正英/614/八幡市橋本平野山68-17/075-983-9046
167/ゲイズ, ダニエル/電話番号のみ訂正 0848-62-0671
214/下さこ正宏/555/大阪市西淀川区佃5-1-34 日本農薬株式会社化学研究所/06-473-0025
300/永瀬連平/561/豊中市豊南町南5-1-1 吉村油化学株式会社/変更なし
311/西山孝子/520/大津市別保3-3-54/0775-37-4644
322/長谷川武治/573/枚方市東香里1-19-15/変更なし
300/林 敏秋/611/宇治市菟道谷下り45-2-302/0774-22-0016
353/深田善樹/471/豊田市トヨタ町601 豊和レジデンス2510/0565-24-1351
354/吹春俊光/280/千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館/043-265-3111
356/福井陸夫/321/宇都宮市上桑島町1365 明治製菓(株)宇都宮食菌試験所/0286-56-1308
374/古谷昭雄/558/大阪市住吉区山之内3-11-25-102/変更なし
420/光田和伸/520/大津市比叡平2-10-2/0775-29-0164
453/森本直明/650/神戸市中央区港島中町4-7-2 神戸女子短期大学/078-303-4751

表紙によせて

1991年9月26日、千葉県八千代市の川島敬さん宅の梨の畑に発生したニオウシメジの写真です。梨畑にする前は竹林でしたが数年前に切り開き、竹を多量に埋めた跡に発生したそうです。最初に発生した1989年10月にはかなり大型のものが5株程発生し、そのなかの20kg程の一株を県立博物館までトラックで運びました。千葉県ではやはり珍菌です。写真は、出始めて1週間程の、小形のもので。私は1983年沖縄県西表島で最初に見たのですが、例によって遊んでいるうちに腐ってしまい、標本と写真が残らなかった因縁のキノコです。ニオウシメジとは仁王占地の意で今関六也先生の命名です。アジア・アフリカの熱帯を中心に発生し、1912年にインド産のものが記載され *Tricholoma giganteum* Massee と命名されました。日本では1981年に熊本県、種子島、沖縄産の標本により日本新産としてはじめて紹介されました。癖のあるにおいと味があり、私はそれほど美味とは思いませんでした。

(吹春 俊光：〒280 千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館)

関西菌類談話会会報 No. 11

1992年5月30日 印刷	事務局	〒567 茨木市春日2-1-2
1992年5月30日 発行		大阪府立春日丘高等学校
編集 関西菌類談話会会報編集委員会		上田俊穂 気付
発行 関西菌類談話会		関西菌類談話会事務局
発行所 関西菌類談話会	印刷所	振替 大阪 5-83129
		中西印刷株式会社
		〒602 京都市上京区下立売通小川東入る
